

ドイツの学校保健教育

— ニーダーザクセン州を中心に（2003年） —

School Health Education in Germany

— From an Example of Niedersachsen in 2003 —

面澤 和子*・衛藤 隆**・遠藤 孝夫***

MENZAWA Kazuko*, ETO Takashi**, ENDO Takao***

Summary

The status of health education in Germany (from an example of Niedersachsen) was surveyed in 2003 as part of a study of European countries. In Germany, health education is not a separate course, but integrated into other courses. Examples of courses (first grade through 13th grade) integrating health education information included fact-teaching, sport, biology and the others. Health education consists of six areas; nutrition, teeth and hygiene, drug abuse prevention, diseases, sex education and safety education.

It is characteristic that the content of extra subjects, such as a part of “teeth and hygiene”, safety education and sex education in Japan is included in subjects in Germany. That means combining intellectual and practical learning. In Germany, health education is considered essential and it is integrated into other courses with the underlying belief changing from the school is “a place for learning” to the school is “a place for life.”

キーワード：ドイツ，ニーダーザクセン州，保健教育，教科横断的課題領域

1. はじめに

1998（平成10）年度の学習指導要領の改訂に伴って，新カリキュラムは小・中学校では2002（平成14）年度から全面実施，高等学校では2003年度から学年進行で実施されている。

保健学習の主な改訂点として，小学校では新たに3・4年生から保健学習が導入され，従来の5・6年生より早い段階から保健の授業が行われることになった。保健の配当時間は3～6年生を合わせると24単位時間程度となり，他の科目が軒並み削減される中で，「保健」の授業のみがわずかに増加した。増えた理由は「心の健康」「病気の予防（生活習慣病，喫煙・飲酒薬物乱用）」等の内容が増えたためである。中学校は48単位時間程度となり，前回より7単位時間削減されたが，高校は2単位（70単位時間）で変化はなかった。

このような変更は，保健体育審議会答申（1997）で指摘されたように，児童生徒の間に，薬物乱用，性の逸脱行動，肥満や生活習慣病の兆候，感染症，いじめや登校拒否等，その多くが心の健康問題と大きく関わっている現代的課題が深刻化していることに対応したものであると考えられる。

児童生徒が健康に生きる力を獲得することができ，ような教科等の構成のあり方を検討する上で，諸外国の保健学習カリキュラムの動向を知ることが有意義である。ヨーロッパ諸国では保健教育に関連教科や特別活動の中で実施している国が比較的多い。

本研究の目的は，ドイツの保健教育の現状を知，るために，教育方針において全国16州の中で中間的立場をとるニーダーザクセン州を中心に調査し，今後の日本における保健学習の在り方を検討する

* 弘前大学教育学部 教育保健講座

Department of School Health Sciences, Faculty of Education, Hirosaki University

** 東京大学大学院教育学研究科 総合教育科学専攻身体教育学講座

Department of Physical and Health Education, Graduate School of Education, The University of Tokyo

*** 弘前大学教育学部 学校教育講座

Department of School Education, Faculty of Education, Hirosaki University

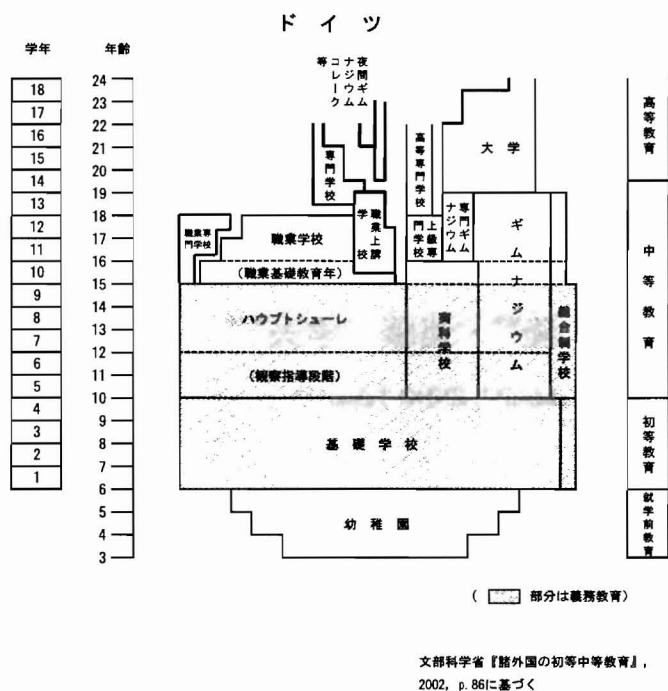


図1 ドイツの学校制度

ための基礎資料を得ることである。学校段階としては、義務教育段階の基礎学校と中等段階Ⅰまでの内容を取り上げる。

学校保健分野でのドイツの保健教育についての先行研究は次の文献だけである。

近藤茂, 森昭三: 西ドイツにおける学校保健教育課程に関する調査研究—ノルトライン・ヴェストファーレンのルールプランを中心に—, 学校保健研究27(9), 421-430, 1985

2. 調査方法

調査対象: ドイツ常設文部大臣会議(KMK)の決議, ニーダーザクセン州の学習指導要領, 保健教育指針, 及び時間割等の文献。

調査方法: 上記の入手資料を翻訳して分析し, 不明な点についてはニーダーザクセン州教育委員会, ヴェーザー・エム県オスナブルック郡教育委員会にメールや電話で問い合わせた。

調査時期: 2003年1月～9月

3. 結果及び考察

(1) ドイツの学校制度及び教育課程と保健教育

1) 学校制度の概要

ドイツでは1990年にドイツ民主共和国(東ドイツ)がドイツ連邦共和国(西ドイツ)に編入される形でドイツ統合が行われた。ドイツは16州によって構成されている連邦制国家であり, 人口は

2002年では約8254万人である。ドイツの学校制度は州によって多少異なるが, 基本的には図1に示したとおりである。すべての子どもに共通の4年制の基礎学校(1～4年/6～9歳)があり, それに続いて, 子ども達は中等段階Ⅰ(5～9又は10年/10～15又は16歳)の3種類の学校に進学する(3分岐型学校制度)。3種類の学校とは, 基幹学校(ハウプトシューレ), 実科学校, ギムナジウムである。この従来からの3分岐型学校制度は, 10歳で進路を決定するものとして批判されてきたが, 1970年代以降, 第5・6学年を共通にするオリエンテーション段階(観察指導段階)の導入や総合制学校の設置, ギムナジウムへの進学率の上昇等によって, 改善が図られてきた。その結果, 3分岐型学校制度は内部的に揺るぎ始めている¹⁾。

ドイツの教育課程は各州の法令, 一般には学習指導要領(LehrplanやRichtlinie)で定められている。これは教育目標を具体化したもので, 公式の教育課程として授業の詳細を規定したものではない。これら教育行政の中心となるのは各州の文部省(Kultusministerium)である。教育政策の基本は各州の文部大臣によって構成される常設文部大臣会議(KMK)の決議で連邦国家としての統一性を図っているが, この決議には法的拘束力はない。

2) 常設文部大臣会議(KMK)の決議²⁾

常設文部大臣会議(KMK)の保健教育に関する決議を年代順に示すと次のとおりである。

ア. 学校における交通安全教育の推奨

(KMK 1972. 07. 07, 1994. 06. 17改訂)

イ. 学校における保健教育の目的と原則について

(KMK 1992. 11. 5/6)

ウ. 学校における麻薬中毒の予防

(KMK 1990. 07. 03)

エ. 学校における保健教育についてのヨーロッパ会議及び会議に参加した各国文部大臣の決議

(1988. 11. 23)

オ. 諸州の実践交流に基づいた学校におけるエイズ発症事例に対する原則と勧告

(KMK 1988. 12. 2)

カ. 「学校における保健教育」に関する基本決議

(KMK 1979. 06. 01)

キ、学校における性教育の推奨
(KMK 1968. 10. 03)

上記の決議イ「学校における保健教育の目的と原則について」(1992. 11. 5/6) では次のように述べられている³⁾。

「ドイツ連邦共和国の諸州の保健教育及び保健教育促進のための措置は、以下のような目標と原則の点で一致している。

学校の保健教育は、

- ① 児童生徒が健康に有益な決定をすることができ、また自分自身と周囲の人々に対する責任をとる事ができるようにする。
- ② 児童生徒が自分及び他者の行動様式と価値とを意識することができるようにする。
- ③ 児童生徒に、健康に良いライフスタイルの発達を促進するために必要な知識と能力を身につけさせる。
- ④ 児童生徒が自分の価値を認める意識を発達させることができるように支援する。

以上のことから、学校の保健教育の原則は、

- ① 行動と関連づけることによって、児童生徒の生活や経験と結びついている。
- ② 保健教育は発見的で探索的な体験と自主的活動を可能にし、行動化を志向する。
- ③ 父母や保護者と協力して進める努力をする。
- ④ 人間の健康は身体的、精神的、社会的、生態的環境によって影響を受けるという考えに基づいている。

諸州の保健教育の目的と原則においては、一致して次のことを強調している。すなわち、児童生徒自身の個人的な行動と個人の責任を自覚する事が重要であることから、教育計画においては、知識と認識を基礎として保健教育の課題に学校全体で取り組み、さらに学校、家庭、地域が連携して健康になるための生活様式の確立を目標とする必要がある。」

このように、保健教育は学校を含めた児童生徒の全生活における健康的な生活様式の確立をめざし、学校の教育活動全体の中で進められるべきであること、また具体的には「時代の要請するテーマ」として性教育、保健教育、薬物乱用防止、交通教育、環境、暴力等の内容について留意して指導すべきであると述べられている。

(2) 保健教育の教育課程上の位置づけ

1) 保健教育に対応する教科の名称

ドイツでは「保健教育」は独立した教科としてではなく、複数の関連教科の中で「教科横断的課題領域」として指導されている。また学校の種別を越えた「学校種共通科目」の中でも指導されている。ニーダーザクセン州の場合、基礎学校(小学1～4年)では「事実教授」が保健教育を行っている中心的教科である。オリエンテーション段階(小学5・6年)以上の学校では、中心的教科は「生物」である。表1にニーダーザクセン州の学校における保健教育が行われている教科名を示した。

表1 各学校段階での保健教育を行っている教科(ニーダーザクセン州の例)⁴⁾

①基礎学校 (小学1～4年, 6～9歳)	「事実教授」が中心(注)。その他スポーツ、被服製作、工作。 全学校種において共通科目である「特殊体操/スポーツ促進授業(様々な障害を持った子供達のためのスポーツ)」「交通安全教育」
②オリエンテーション段階 (小学5・6年, 10～11歳)	「生物」が中心。その他、スポーツ、物理/化学、被服製作、宗教(プロテスタント、カトリック(以下、宗教)), 工作。 全学校種共通科目の「特殊体操/スポーツ促進授業」「交通安全教育」「価値と規範」
③中等学校Ⅰ 基幹学校	(3分岐型学校)(7～10年, 12～15歳) 「生物」が中心。その他、被服製作、スポーツ、社会科、化学/物理、宗教、職業教育、技術。 全学校種共通科目の「特殊体操/スポーツ促進授業」「交通安全教育」「価値と規範」
実科学校	「生物」が中心。その他、被服製作、スポーツ、社会科、宗教、職業/経済(労働科)、技術、制作活動。 全学校種共通科目の「価値と規範」
ギムナジウム	「生物」が中心。その他、スポーツ、宗教、社会科、化学、物理。 全学校種共通科目の「交通安全教育」「価値と規範」

(注) バーデン・ヴュルテンベルク州では「郷土・事実教授」というように州によって多少異なる。またオリエンテーション段階はなく中等学校Ⅰの諸学校に移行する。

2) 配置されている学年 (オリエンテーション段階) は、ニーダーザクセン州における保健教育内容を構成する6つの領域が、各教科の中でどの学年に配置されているのかを示したものである。

保健教育は様々な教科の中に、基礎学校から中等段階Ⅰ(小・中学校段階)までのすべての学年段階に配置されている。表2(基礎学校)、表3

表2 基礎学校における教科と保健教育内容 -ニーダーザクセン州-⁵⁾

教科 内 容	事実教授	被服製作	工 作	スポーツ	特殊体操/スポーツ 促進授業	交通安全教育
	全校種共通科目					
健康的な栄養 摂取と栄養状態	1年 私の一日 規則的な食事 3年: 健康的な栄養摂取 -栄養状態の管理 -甘いものを習慣 的にとった結果 -価値のある朝食					
歯と身体 の衛生	1年 私の一日 正しく規則的な歯 磨き 体の衛生 清潔な衣服	3・4年 衣服には様々な目 的がある -素材には異なっ た特徴がある。 上着と下着; 夏服と冬服, スポ ーツや遊び, 祭り のための洋服素材 について考え, 扱 う				
中毒・薬物 乱用防止	2年 嗜好品と薬の危険 性					
文明病と 感染症	2年 見る, 聞く, 触れる 3年 味わう, 匂いを嗅ぐ 4年 様々な一日の経過 を比較。 不規則な生活リス ムによる健康障害			3・4年 水泳 -冷えすぎた時の 体の反応 -水浴, 水泳と関 連のある疾病を防 ぐ方法	以下のことの支援 措置 -身体的発達の遅 れ, 運動障害, 行 動障害, 調整とコ ンディションの障 害 -知的障害, 難聴, 弱視 -関係障害と行動 傷害	
性教育	1年 男子と女子の違い -他の性との比較 -平等(興味・遊 び・衣服) -協力 2年 母性, 妊娠, 誕生 3年 男性と女性-母と 父 4年 性の成熟					
安全教育/ 事故防止	1年 事故の時に何をす るべきか 4年 事故を避ける-事 故の際の正しい行 動 正しい電気の扱い 方		3・4年 事故や危険に対す る生徒の安全意識 の喚起と, 事故防 止のための安全な 行動の練習 道具や材料を扱 う際の危険につい て理解する	3・4年 器械体操 基本的な安全措置 水泳 予防措置と水泳の 決まり		1~4年 交通安全教育の目 的と内容 -公共の交通機関 や乗用車の同乗者 としての適切な振 舞い -警察や救急隊に どんな助けがで きるか

表3 オリエンテーション段階における教科と保健教育の内容 —ニーダーザクセン州—⁶⁾

教科 内容	生 物	物理／ 化 学	宗 教 (プロテスタント)	宗 教 (カトリック)	工 作	被服製作	スポーツ	特殊体操/ス ポーツ促進 授業	交通安全 教育	価値と規範
	全 校 種 共 通 科 目									
健康的な 栄養摂取 と 栄養状態	人間の体と 健康維持 －健康的な 栄養摂取； 偏った/バ ランスの良 い栄養摂取 の場合 －休息と気 晴らし	水 水の汚染飲 料水、蒸留 水の塩分 水の循環に 対する人間 の影響								
歯と身体 の 衛 生	人間の体と 健康維持 例、歯の手 入れ －虫歯：矯 正に必要な 歯、 －健康的な 栄養摂取に よる歯の衛 生 －正しい歯 磨き、簡単 な歯の手入 れ方法	水 水の汚染、 水の循環に 対する人間 の影響				消費者情報 衣類と繊維 製品の健康				権威と服従 体の衛生 衣服
中毒・薬物 乱用防止	人間の体と 健康維持 例、禁煙									権威と服従 アルコール ニコチン タバコの害
文明病と 感 染 症	人間の体と 健康維持 運動 －骨、関節、 筋肉、腱の 協同； －骨折、足 の怪我 書く時、ラ ンドセルを 背負う時の 姿勢	水 水の汚染 飲料水、蒸 留水とミネ ラル 水の循環に 対する人間 の影響					簡単な陸上 競技とオリ エンテーリ ング 走、投、跳 のウォーミ ングアッ プ； 休息時と運 動後の脈拍 数を測定・ 判定 水泳： 水浴と水泳 による健康 促進と疾病	以下の事の 支援措置 －肉体的発 達の遅れ、 運動障害、 行動障害、 調整とコン ディション の不良 －知的障害、 難聴、弱視 －関係障害 と行動障害		生活への要 求と期待 －例、健康、 満足 内面の満足 としての幸 福 －例、健康
性 教 育	人間の体と 健康維持 生殖 －生殖器 －胎内での 成長 －思春期に おける肉体的、精神的 変化		友人関係 男子／女子 (任意のテ ーマ)	家族愛						生活への要 求と期待 －例、友情 －例、両親 と子供 異性間の愛
安全教育 ／ 事故防止		内容の選択 と指示 自然科学授 業時の安全 規範 循環 －身体の伝 導性のため に人間に及 ぼす危険 －電気の取 り扱い時の 安全と行動 規範 －回路のシ ョートと過 負荷 授業編成と 方法 必要な安全 規範と処置		仕事の安全 事故や危険 に対する生徒の安全意 識の喚起と 事故防止の ための安全 な行動の練 習		器械体操 基本的な安全措置 簡単な陸上 競技とオリ エンテーシ ョン 運動時の安全と事故防止 水泳 水辺と水中での危険、 水泳の規則と救助の可能性 救助 危険を意識する		目的と内容 －乗り物の乗降時における正しい行動を理解し、練習する －疲労や気分、病気、薬、アルコール、ドラッグが運転を妨げ危険性を高めることを知る －事故の際、自分はどんな行動が取れるか		

3) 各学年の授業時数

授業全体における保健教育の位置づけを概観するため、基礎学校は全教科の授業時間数、中等段

表4 基礎学校の授業時間数

ーニーダーザクセン州ー (週当たり) 7)

科目/学年	1年	2年	3年	4年
基礎的学習	20	21		
ドイツ語	注(5)	(5)	5	5
事実教授	(2)	(3)	4	4
算数	(5)	(5)	5	5
宗教・プロテスタント	(2)	(2)	2	2
宗教・カトリック	(2)	(2)	2	2
スポーツ	(3)	(3)	3	3
専門領域				
芸術・文化教育				
音楽/美術	(3)	(3)	4	5
工作				
被服製作				
クラブ活動 又は 自由活動			1	1
訓練的学習	1	1	1	1
必修時間	20	20	24	24
支援・促進的措置	0-2	0-2	0-2	0-2
上限授業時間数	22	22	26	26

(注) 1ー2年の()内の数字は基礎的学習の内訳時間数を示す。(1時間の授業は45分)

階Ⅰは中心となる自然科学領域の授業時間数の表を作成し、表4～8に示した。バーデン・ヴュルテンベルク州は比較のために文献を参考にした。

表5 基礎学校の授業時間数

ーバーデン・ヴュルテンベルク州ー (週当たり) 8)

教科 \ 学年	1年	2年	3年	4年
宗教	2	2	2	2
ドイツ語	6	6	7	7
郷土・事実教授	3	3	3	3
数学	4	5	5	5
美術/裁縫	1	2	3	3
音楽	1	1	1	1
スポーツ	3	3	3	3
合計	20	22	24	24
支援促進授業	2	2	2	3

(aus: Verordnung vom 28. April 1994)

表6 「郷土・事実教授」中の保健教育テーマの授業時間数
バーデン・ヴュルテンベルク州 (1994) 9)

テーマ (注)	1・2年	3年	4年
「生活と健康」	24	9	9
「交通と環境」	27	15	15

注: 「郷土・事実教授」では7つのテーマが扱われている。

1. 郷土と異境, 2. 生活と健康, 3. 空間と時間, 4. 植物と動物, 5. 自然と技術, 6. メディアと消費, 7. 交通と環境。

この中の主に2つのテーマで保健教育の内容を取り上げている。

表7 自然科学領域 (生物, 化学, 物理) の授業時間数 (ニーダーザクセン州)

学 校	教 科	授業時間数	5 年	6 年	7 年	8 年	9 年	10 年
10) オリエンテーション 段 階	数学－自然科学領域							
	数 学		4	4				
	生 物 物理／化学		} 3	} 3				
11) 基 幹 学 校	数学－自然科学領域							
	数 学	} 10－13			4	4	4	4
	物 理				＋	＋	＋	＋
	化 学				＋	＋	＋	＋
	生 物				＋	＋	＋	＋
12) 実 科 学 校	数学－自然科学領域							
	数 学	} 13－17			4	4	4	4
	物 理				＋	＋	＋	＋
	化 学				＋	＋	＋	＋
	生 物				＋	＋	＋	＋
	情報処理				＋	＋	＋	＋
13) ギムナジウム (注3)	課題分野C							
	数 学				4	3	4	4
	物 理				1	2	2	2
	化 学				1	2	2	2
	生 物				2	1	2	1

(注3) …ギムナジウムにはA, B 2つの時間数が示されているが、表7には固定して時間配当をしているA表の時間数を示した。B表は9年の時間数が1時間でA表より少ないが、他の教科との間で選択できるようになっているものである。

表8 「生物」の週当たり授業時間数 (全体) …バーデン・ヴュルテンベルク州の場合 (1996) 14)

学 校	教 科	5年	6年	7年	8年	9年	10年	11年
基 幹 学 校	生物/化学	2	2	2	2	2	2	
	物 理	—	—	1	1	1	3	
実 科 学 校	生 物	2	2	1	1	2	1	
	化 学 物 理	— —	— —	— —	2 2	1.5 1.5	2 2	
ギムナジウム	生 物	2	2	2	1	—	2	1/2
	化 学	—	—	—	—	2	2	1
	物 理	—	—	—	2	1	1/2	2/3

①基礎学校（1～4学年）

表4、5には基礎学校の全科目の週当たりの授業時間数を示した。表4はニーダーザクセン州、表5はバーデン・ヴュルテンベルク州である。科目の構成や科目名は州によって異なることがわかる。

表4のニーダーザクセン州では中心教科の「事実教授」の時間は、週当たりで1年－2時間、2年－3時間、3・4年－4時間である。

「スポーツ」は全学年3時間。「工作」「被服制作」「音楽／美術」の3教科を併せて3年で4時間、4年で5時間であるが、教師の判断で時間配分を行う。

表5のバーデン・ヴュルテンベルク州の場合、「郷土・事実教授」は1～4年まですべて週3時間である。「スポーツ」も全学年とも週3時間、「美術／裁縫」は学年進行で週1, 2, 3, 3時間である。表6には同州の「郷土・事実教授」の保健教育に関する大単元の授業時間数を示した。現在の学習指導要領は、1994/5年から実施されている。

②中等学校 I（5～10又は11学年）

中心教科の「生物」は自然科学領域の1教科である。週1～2時間で、5～10/11学年まで必修である。その他、スポーツ科は8～11学年のうち週2時間の場合があるのを除いて週3時間（～2時間）、宗教は全学年ほぼ週2時間（～1時間）、宗教を受けない場合の倫理は8年生からで週1～2時間ある。各教科の具体的な保健教育関連テーマの時間数は不明。

表7にはニーダーザクセン州、表8にはバーデン・ヴュルテンベルク州の自然科学領域の週当たりの時間数を示した。表7の基幹学校と実科学学校の7～10年の時間数の枠内に＋が書かれているが、これはクロスカリキュラムであることを示している。生物、物理、化学の3教科を関連させて柔軟に授業構成ができるようになっている。

以上2つの州を比較すると、時間数の表でみる限り、ニーダーザクセン州では「事実教授」の保健教育内容がより融合的に展開され、自然科学の時間にクロスカリキュラムの方式をとるなど教師の裁量に任されている部分が多いのに対し、バーデン・ヴュルテンベルク州では時間や内容を各学年に配置する従来の方法をとっている等の違いがある。

4) 必修、選択の区別

中心教科である基礎学校の「事実教授」または「郷土・事実教授」、オリエンテーション段階以上の「(生物などの)自然科学」、さらに「スポーツ」、「宗教」又は「価値と規範」など、関連教科は必修である。ニーダーザクセン州の基幹学校の9・10年生の被服制作は選択である。

(3) 目標、内容等の示し方

1) どのように示しているか

学習指導要領の中に、各学校の教科ごとに大単元、単元、(単元の)教育目標、学習目標、内容、指示(留意点)に分けて示されている。学習目標の文末は「説明する」「評価する」「挙げる」「比較する」「討論する」等の行動目標で示されている¹⁵⁾¹⁶⁾¹⁷⁾¹⁸⁾。

2) 学年別等の示しかた

学年別に示されている。基礎学校の「事実教授」の場合、目標、内容は次のように示されている。「事実教授は、児童にとって意味があり、同時に親しみやすい生活現実の様々な部分を開いてあげておくことを課題としている。事実教授は、基礎的知識・能力を伝達し、簡単で基本的な諸経験と認識へと導き、精神的・実践的諸能力を発達させ、行動様式と態度に働きかける。それらの基礎的な知識、諸経験、行動様式等は、児童がその生活の様々な状況の中で、意識的に適切に行動したり、自分の周囲のものをより正確に理解したり、さらには年齢に応じたやり方で判断し協力することを助けるものとなる。」¹⁹⁾

表9に現在の学習指導要領(1982年公布, 2004年7月まで使用される)から、「事実教授」の大単元名(Rahmenthema)、単元名(Thema)、教育目標(Lehrziele)の一部を示した。単元についている番号は学年、教科、項目などを示していたが、その後の改訂で、1・2年、3・4年と複数年にわたって、内容の構成も教師の裁量でできるように変更された。表9の横のつながりの次には、「提案」として「学習目標」が行動目標の形式で示され、その右横には具体的な「授業への指示」が書かれている。

実科学学校9, 10年の例では、「性行動と健康」単元は15時間配当である。学習目標の文末は、「避妊の可能な方法を列挙し、説明し、比較する」、内容として「ピル、コンドーム、……」等、留意点として「安全、副作用、……」が挙げられている²⁰⁾。

表9 基礎学校の学習指導要領「事実教授」(1982年告示)の一部²¹⁾

●ニーダーザクセン州文部省「基礎学校学習指導要領(事実教授)」(1982年告示)

(1) 大単元: 事故とその他の危険に際しての行動

単元: 1. 3. 2 事故の時には何を行うべきか?

日常, 様々な事故が起こる。その際に, 自らが適切に行動することが重要となる。

教育目標: 児童は, 事故の際に, 年齢や事態に応じて行動する能力を身につけるべきである。児童は最も重要なこととして, 迅速に大人に通報することを学ばなければならない。しかし可能ならば負傷者を一人にしないことも学ばねばならない。

単元: 2. 3. 2 嗜好品及び薬による危険性

小さな子どもの年齢で嗜好品や薬を不用意に無秩序に摂取することは, 個々人にとってもまた社会全体にとっても危険なことになる。

教育目標: 児童は, 医師の指示なしに薬を摂取することは危険であること, また嗜好品は健康に危険性を引き起こすことを知らねばならない。

横の関連 (つながり): 単元 1. 2. 1 / 1. 2. 2 / 2. 3. 1 / 2. 3. 2

→スポーツ

(2) 大単元: 性教育

単元: 2. 2. 3 母性, 妊娠, 誕生

教育目標: 児童は妊娠と誕生と乳児保育に関して, 年齢に応じた最も重要な知識を獲得すべきである。児童は, 妊娠している人が特別の援助と配慮を必要とし, また新生児が特別の世話と暖かい愛情を必要としていることを学ぶべきである。

(略)

横の関連 (つながり): 単元 1. 3. 3 (以下略)

→宗教科

(以下, 横の関連は省略)

(3) 大単元: 道路通行の際の行動

単元: 2. 3. 4 徒歩の際の行動

教育目標: 児童は自分の通学路以外の交通状況においても歩行者として自律的にかつ交通の状況に応じて行動でき, 意識的に危険を予防し, 回避することができなければならない。

単元: 2. 3. 5 警察官と通学指導生徒による支援

教育目標: 児童はさまざまな制服を着た人の中から警察官を見つけだすことができ, またどのようにして, いつ, どこで自分たちのために警察官が来てくれるのかを書けるようになるべきである。児童の学校に通学指導生徒が配置されている場合には, 児童はその通学指導生徒の支援を利用し, また彼らを助けることができないなければならない。

単元: 2. 3. 6 同乗者としての行動, また自転車運転者としての行動

教育目標: 児童は, 乗用車の同乗者となった場合には, 交通にふさわしい行動ができまた同乗者として自らの行動を記述し, 根拠づけることができるべきである。通学時に自転車を使用する児童は, 自転車の交通にふさわしい行動ができなければならない。

(4) 大単元: 身体的・精神的に人間が必要とするもの

単元: 3. 3. 1 健康的な栄養の摂り方

十分に栄養のバランスのとれた食べ物は生活に必要である。過食, 間違った食物摂取や食事習慣はしばしば我々の時代の特別な問題である。従って, この単元は保健教育にとって重要な役割を持っている。父母との協働はその際に特に重要である。

教育目標: 児童は, 健康的な栄養摂取によって自らの健康を維持する準備ができ, かつその能力を有するべきである。栄養素に関する初歩的知識は, 簡単な実験を行うことで理解しやすくなり, 児童が健康的な栄養摂取の必要性を理解するのに役立てることができる。

(5) 大単元 性教育

単元: 3. 3. 4 男性と女性一母と父

教育目標: 児童は, 男女が互いに愛し合い, 結婚によって親密な関係を築くことができること, また男性と女性は子どもをもつことができ, 父親及び母親として一つの家庭の中で特別な課題と義務とを持つということを知るべきである。

(6) 大単元: 道路通行の際の行動

単元: 3. 3. 5 道路通行における交通標識とその他の標識

教育目標: 児童は, 交通標識や信号及び警察官を通しての交通規制に応じて, 正しく行動ができなければならない。児童は合図を出さなければならない, またその他の交通環境にいる人々の合図を理解して交通にふさわしい行動ができなければならない。

単元: 3. 3. 6 誰が優先通行権を持つのか?

教育目標: 児童は, 優先通行権規則を交通状況に応じて適用しなければならない。

表10にニーダーザクセン州の「事実教授」、表11にはバーデン・ヴュルテンベルク州の「郷土・事実教授」の学習分野、単元名と学年との関連を示した。

3) その他内容等の示し方の特色

「学習指導要領」の各単元のエデュケーショナル・ゴールの下には、「横の関連（つながり）」として関連する学年、単元、項目、その他の関連教科も示されている。「保健教育実施要領」（1991）⁴⁾の場合も、それぞれ関連する単元の頁数が記入されており、教科横断的課題領域の弱点である見落としや複雑さを補う工夫がされている。

（4）内容構成

1) 内容の区分（領域、分野等）

ニーダーザクセン州の場合、6つの領域（健康的な栄養、歯と身体の衛生、薬物乱用防止、文明病と感染症、性教育、安全教育/事故防止）から内容が構成されている。すべての教科及び全学校種共通科目の中で扱われている。

表12に基礎学校とオリエンテーション段階における保健教育の内容領域、指導されている教科、学年との関係を示した。

2) 内容及び内容の配列の特色

以下の5つの特色が挙げられる。

第1には、ニーダーザクセン州学校法第77条第4項の規定で、教師は授業の内容、計画、形態について親と相談すべきであり、特に性教育の目標、内容に関しては連携のために大切であることと、その際、父母の教育権と生徒の人格権が配慮され

表10 「事実教授」の学習分野と単元名（ニーダーザクセン州、基礎学校）²²⁾

学 習 分 野	1・2年	3・4年
人々の共同生活	・ 友達との生活 ・ 家族との生活 ・ 生活時間の流れ	・ 学校、人々を結ぶ郵便局と公共交通機関 ・ 保護と安全のための警察と消防署, z. 家族と世代 z. 情報, 地域の職場, 居住地の昔と今
人間と郷土の生活空間	・ 学校での生活 z. 子どもの遊び場 z. 買い物 ・ さまざまな通学路 ・ ゴミの排出と処理	・ 居住地と周辺地, z. 農家の光景と変化, z. 水の供給と下水の浄化, ・ 近隣地域とニーダーザクセン, z. 道路はむすぶ z. 余暇制度と近隣のレクリエーション地域, z. 定期市での商品供給と買い物
人々の生活の維持	・ 主な一日の生活, ・ 少年と少女の違い z. 母性・妊娠・誕生 ・ 見る・聞く・味わう z. 嗜好品と薬の危険性 ・ 事故が起こった時どうするか ・ 道路通行の支援, 通学路 z. バス乗車と道路 ・ 徒歩の際の行動 ・ 警察官と通学指導生徒による支援 z. 同乗者及び自転車運転者としての行動	z. 様々な一日の生活を比較する, ・ 健康的な食物摂取, z. 味わい・臭い ・ 男性と女性－母と父, z. 性的な成熟 ・ 交通標識と道路通行におけるその他の標識 ・ 優先通行権があるのは誰か ・ 事故の回避－事故への適切な対応 ・ 見通しの悪い道路と悪い天候 ・ 自転車予備試験の準備 z. 火災と消火
人間と自然	・ 植物の世話, 動物とその扱い方を学習する z. おもちゃでの遊び・作り方と片づけ, ・ 日用品と原料の調査, 世界の観察, z. 液体と固体, z. 温度の測定と簡単な温度計モデルの作成	・ 植物の世話, 動物とその扱い方の学習 z. 動物の飼育, 動植物の成長・発達の観察と記録 z. 動植物の比較と分類 z. 動植物増殖の可能性の学習, ・ 水のエネルギー, 気象現象の観察・測定・説明 z. 鉄の錆による物質の破壊, 正しい電気の使い方

（注）z は、選択のテーマを示す。

表11 「郷土・事実科」の学習分野と単元名（バーデン・ヴュルテンベルグ州）⁹⁾

学習分野	1・2年	3年	4年
生活と健康	・ 体を大切にし, 健康を保つ ・ 感覚で世界を理解する ・ からだについてわかる (24)	・ 正しく栄養をとる－多くの人々の問題 ・ 性差の問題 (9)	・ 薬物乱用防止 ・ 人間の性の特徴 (9)
交通と環境	・ 児童と交通の関わり ・ 乗り物による交通事故への対処 (27)	・ 環境にやさしい自転車に乗る (15)	・ 常時変化する交通社会における徒歩又は自転車での生活 ・ 自転車の手入れ (15)

注：（ ）内の数字は時間数。

表12 保健教育の内容と学年・教科 ニーダーザクセン州の基礎学校とオリエンテーション段階²³⁾ー

内容	健康的な栄養摂取と栄養状態	歯と身体の衛生	中毒・薬物乱用防止	文明病と感染症	性教育	安全教育/事故防止
基礎学校	<p>1年 規則的な食事</p> <p>3年 栄養状態の管理 ー甘い物 ー朝食 (事実教授)</p>	<p>1年 規則的な歯磨き</p> <p>体の衛生 清潔な衣服 (事実教授)</p> <p>3・4年 衣服の目的: ー素材の特徴 ー夏服と冬服 ースポーツや遊び ー祭 (被服製作)</p>	<p>2年 嗜好品と薬の危険性 (事実教授)</p>	<p>2年 見る, 聞く, 触れる</p> <p>3年 味わう, 匂いを嗅ぐ</p> <p>4年 生活リズムと健康障害 (事実教授)</p> <p>3・4年 水泳 ー冷え ー関連のある疾病を防ぐ方法 (スポーツ) (全校種共通) 矯正措置 ー身体的・知的障害, 難聴, 弱視 ー関係・行動傷害 (特殊体操/スポーツ促進授業)</p>	<p>1年 男子と女子の違い ー他の性との比較 ー平等 (興味・遊び・衣服) ー協力</p> <p>2年 母であること, 妊娠, 誕生</p> <p>3年 男性と女性ー母と父</p> <p>4年 性の成熟 (事実教授)</p>	<p>1年 事故時の行動</p> <p>4年 事故の回避 正しい電気の扱い方 (事実教授)</p> <p>3・4年 安全意識, 安全な行動の練習 道具や材料の取り扱い時の危険性 (工作)</p> <p>3・4年 器械体操ー基本的な安全措置 水泳ー予防措置と水泳の決まり (スポーツ)</p> <p>1～4年 同乗者としての適切な振る舞い 警察や救急隊の手助け (交通安全教育)</p>
オリエンテーション段階	<p>5・6年</p> <p>バランスの良い栄養摂取</p> <p>休息と気晴らし (生物)</p> <p>水の汚染 ー飲料水 ー蒸留水の塩分 体内の水の循環 (物理/化学)</p>	<p>5・6年</p> <p>歯の手入れ ー虫歯, 矯正</p> <p>栄養と歯の衛生 正しい歯磨き (生物)</p> <p>水 ー水の汚染, 体内の水の循環 (物理/化学)</p> <p>体の衛生, 衣服 (価値と規範)</p>	<p>5・6年</p> <p>禁煙 (生物)</p> <p>アルコール ニコチン タバコ害 (価値と規範)</p>	<p>5・6年</p> <p>運動 ー骨, 関節, 筋肉, 腱の協同; 骨折, 足の怪我 ー書く時, ランドセルを背負うときの姿勢 (生物)</p> <p>水の汚染と飲料水 ー蒸留水とミネラル 体内の水の循環 (物理/化学)</p> <p>陸上競技とオリエンテーション: ーウォーミングアップ ー休息時と運動後の脈拍数を測定・判定</p> <p>水浴と水泳による健康促進と疾病 (スポーツ)</p> <p>矯正措置 ー身体的・知的・関係・行動傷害, 難聴, 弱視 (全校種共通: 特殊体操/スポーツ促進授業)</p> <p>生活への要求と期待, 幸福 ー例, 健康, 満足 (価値と規範)</p>	<p>5・6年</p> <p>生殖 ー生殖器 ー胎内での成長 ー思春期における心身の変化 (生物)</p> <p>友人関係: 男子/女子 (任意のテーマ) (宗教(プロテスタント))</p> <p>家族愛 (宗教(カトリック))</p> <p>生活への要求と期待 ー例, 友情 ー例, 両親と子供, 異性間の愛 (価値と規範)</p>	<p>5・6年</p> <p>(内容の選択) 安全規範 ー身体伝導性と危険 ー電気の取り扱い ー回路のショートと過負荷 (物理/化学)</p> <p>仕事の安全 ー安全意識の喚起 ー安全な行動の練習 (工作)</p> <p>器械体操 ー基本的な安全措置</p> <p>陸上競技とオリエンテーション 運動時の安全と事故防止</p> <p>水泳 ー水辺と水中の危険, ー水泳の規則と救助の可能性</p> <p>救助…危険の意識 (スポーツ)</p> <p>ー乗り物の乗降時の正しい行動 ー疲労や気分, 病気, 薬, アルコール, ドラッグが運転を妨げ, 危険性を高めることを知る ー事故時の行動 (交通安全教育)</p>

るべきであるということが示されている²⁴⁾。

第2には、「栄養」が保健教育における内容領域の1つの柱に挙げられている事である。これは日本の家庭科に該当する教科は1～6年には「被服製作」だけであり、栄養その他の領域は健康に関わる内容として課題領域の保健教育の中で指導されている。また糖尿病が9・10年の生物の中で栄養との関わりで指導されている。尚、家庭科はハウプトシューレ、実科学校（7～10年）には被服製作と共にある。

第3には、性教育が充実しているという点である。基礎学校の1年から学年を追って継続的に指導されている。まず基礎学校の必修教科「事実教授」で、1年から「男女の違いと平等」、2年で「母であること、妊娠、誕生」、3年で「母と父」、4年では「性の成熟」を扱っている。5・6年以上は生物で「思春期の心身の変化」、7・8年で「性交渉、結婚、結婚の影響」、9年で「生殖と遺伝、妊娠、出産、保育、避妊による家族計画」を学ぶ。精神的な内容は宗教や「価値と倫理」の時間で学習する。男女の性の違いから始まり、結婚、出産、家族、精神的な内容まで、まとまりのある連続的な構成となっている。

第4に、「安全」の内容がスポーツ、職業教育や交通安全教育も含めて教科の中で多く扱われている。

第5に、学校種共通科目として障害者体育が健康を高めるために学校全体で扱われており、日本ではまだ取り上げられていない内容である。

（5）その他、我が国と比較した特色

すでに述べたように、学習指導要領は授業の詳細を規定したものではなく、提案という形で示されており、日本のような拘束性はないという点である。

ドイツ国内16州の教育課程の改訂の時期は州毎に異なる。文献1によれば、近年改訂が進められたヘッセン州（1995）、ノルトライン・ヴェストファーレン州（1996）などの諸州では、「学校」は「学習の場」とであると共に「生活の場」とであるという考え方に基づいて教育課程を改訂した。ヘッセン州の学習指導要領は3部構成で、A. 全体的方向、B. 教科、の2領域の他、C領域が「生活空間、生活の場としての基礎学校」であり、その中に「科目にまたがる課題領域」が置かれ、教科の枠では十分に対応できない学習内容である次の

7項目：①保健教育、②性教育、③メディア教育、④平和・正義教育、⑤環境教育、⑥交通教育、⑦文化実践／創作劇、が挙げられている¹⁾ということである。

これまでに述べたように、保健教育はこのような学校教育の変化の中にあつて、その役割は大きくなっている。ドイツの保健教育では、児童生徒が授業内容を実生活に反映できるような知識と応用を統合した構成になっているので、日本では教科外のいわゆる保健指導の内容に当たる歯と身体の衛生、安全、性などの内容が、学習指導要領の教科内容として明記されており、そのために必要な時間が配当されている。日本では教科と教科外指導は厳密に区別されていて、学校全体で行われる教科外指導は責任が曖昧になりがちであること、また子ども達にとっては知識と実際の乖離を生むという問題点があるが、この点で参考になる構成である。学校は「学習の場」とであると共に「生活の場」とであるという考え方は、生徒がその生活・成長の過程で非行・逸脱など横道に迷いこまないよう種々の配慮を志向するパストラル・ケア（牧人的世話）の考え方につながるものであり、子ども達の実生活を視野に入れた学校教育のあり方を示している。

4. おわりに

ドイツの保健教育の特色をキーワード的に挙げると、教科横断的課題領域、クロスカリキュラム、核となるテーマ、意味のある関連付け、教科内と教科外内容の一体化、生活の場としての学校、内容の柔軟な扱い、教師の自由裁量の大きさ、学年のグループ化、等がある。日本の今後の保健教育を考える上で一つの参考になると考えられる。

ニーダーザクセン州では今年（2003.8）大きな教育改革が行われた²⁵⁾。基礎学校の学習指導要領については1982年に発行されたもので改訂の時期にあったが、改革の最大の理由は政権の交代という背景があったからである。今回の改革は2004年から実施される。オリエンテーション段階はなくなり、5・6年から中等教育Ⅰの3分岐型の学校に進学する従来の教育制度に変わる。今後の動向に注目していく必要がある。

謝 辞

本報告の作成に当たり、ドイツ・ニーダーザクセン州ヴェーザー・エム県オスナブルック郡の学

務課長 Herr Hansgeorg Litty, 秘書の Herr Ulrich Schulte-Wieschen, ニーダーザクセン州文部省 (Niedersächsisches Kultusministerium), 元弘前大学の Höffken Christoph 氏他の方々にご協力頂きました。心よりお礼申し上げます。

Für ihre freundliche Bereitstellung von Materialien und weiteren Informationen bin ich Herrn Regierungsschuldirektor Hansgeorg Litty und Herrn Ulrich Schulte-Wieschen (Bundesland Niedersachsen, Bezirksregierung Weser-Ems, Außenstelle Osnabrück) zu großem Dank verpflichtet.

本研究は、次のドイツについての報告書を基に再構成したものである。

国立教育政策研究所:「教科等の構成と開発に関する調査研究」研究成果報告書 (17), 保健のカリキュラムの改善に関する研究—諸外国の動向, 67—80, 2004年8月

<引用及び参考文献>

- 1) 海外教育課程研究会: 主要国における教育課程基準・評価及び教科書に関する調査研究—第二次報告 各国編 (ドイツ) 一, 5-7, 2000年3月
- 2) Vereinbarungen der Kultusministerkonferenz.
<http://www.kmk.org>
- 3) Ziele und Grundsätze der Gesundheitserziehung. Zur Situation der Gesundheitserziehung in der Schule.
KMK vom 05./06. 11. 1992.
- 4) Niedersächsisches Kultusministerium.
Empfehlungen zur Gesundheitserziehung in allgemeinbildenden Schulen. Formen der Umsetzung von Gesundheitserziehung in der Schule. 1991.
- 5) 前掲4). 14-15.
- 6) 前掲4). 16-17.
- 7) Die Arbeit in der Grundschule. Erlaß vom 5. März 2002.
- 8) 前掲1). 10
- 9) 国立教育研究所: 社会科系教科のカリキュラムの改善に関する研究—諸外国の動向, 23. 2000. 3
- 10) Niedersächsisches Kultusministerium.
Erlaß vom 25. März 1997: Die Arbeit in der Orientierungsstufe.
- 11) Niedersächsisches Kultusministerium. Erlaß vom 25. März 1997: Die Arbeit in der Hauptschule.

- 12) Niedersächsisches Kultusministerium. Erlaß vom 25. März 1997: Die Arbeit in der Realschule.
- 13) Niedersächsisches Kultusministerium. Erlaß vom 14. März 1995: Die Arbeit in der Gymnasium.
- 14) 前掲1). 11-12.
- 15) Niedersächsisches Kultusministerium.(1982).
Rahmenrichtlinien für die Grundschule (Sachunterricht). Hannover: Schroedel.
- 16) Niedersächsisches Kultusministerium.(1993).
Rahmenrichtlinien für die Hauptschule (Biologie). Hannover: Schroedel.
- 17) Niedersächsisches Kultusministerium.(1992).
Rahmenrichtlinien für die Realschule (Naturwissenschaften). Hannover: Schroedel.
- 18) Niedersächsisches Kultusministerium.(1999).
Rahmenrichtlinien für das Gymnasium-gymnasiale Oberstufe (Biologie). Hannover: Schroedel.
- 19) 前掲15). 5.
- 20) 前掲17). 72-84.
- 21) 前掲15). 26-63.
- 22) 前掲15). 20-21.
- 23) 前掲4). 14-17.
- 24) 前掲17). 82.
- 25) <http://www.mk.niedersachsen.de/home/>
(2005. 1. 11 受理)